

高齢者の自己決定に関する研究

ー介護福祉士の支援に焦点をあててー

○ 四天王寺大学 笠原 幸子 (2556)

畑 智恵美 (四天王寺大学・2946)

主体性 高齢者の自己決定 介護福祉士

1. 研究目的

人生のフィナーレにおいて、悔いのない人生をおくりたいというのは共通の思いである。そこにおいて「自己決定」は重要な理念の一つであり、高齢者の最も身近で支援する介護福祉士の役割は重要である。本研究は、虚弱高齢者(軽度の認知症高齢者を含む)の自己決定の構造と介護福祉士の具体的支援に関する昨年の研究発表の延長線上の発表である。今回は、高齢者が自己決定する過程において①高齢者へ「自分自身の意志と役割を持っていること」を伝える支援、②高齢者自身の「語り」の支援、③高齢者の「主体的実行」を引き出す支援の精度を向上させるため、介護福祉士に求められる要件を検討することを研究目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、介護福祉士(表1)を対象に質的研究を採用し、フォーカスグループインタビューを2016年8月27日に実施した。分析方法は内容分析を採用した。インタビューガイドは「これまで介護福祉士として業務する中で、高齢者の自己決定を支援されたご経験についてお話しください」、「介護福祉士としての業務の中で、どのようなところに重きをおいていますか」とした。

表1 調査対象者

調査対象者	介護の経験年数	現職
A	15年	訪問介護事業所の訪問介護員(介護福祉士)
B	13年	養護老人ホームの介護福祉士
C	20年	通所介護事業所の介護福祉士
D	22年	介護老人福祉施設の介護福祉士
E	18年	軽費老人ホームの施設長(介護福祉士)
F	29年	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護の施設長(介護福祉士)
G	25年	通所介護事業所の介護福祉士

3. 倫理的配慮

調査実施にあたっては、調査対象者へ調査目的を口頭と文書をもって説明し、データは個人のプライバシーの保護に十分配慮し、匿名性が確保されること、面接に際しては、語り

たくないことは語らなくてもよいこと等を確認し、録音することを了承のうえ、同意書による同意を得た。なお、本研究は四天王寺大学研究倫理審査委員会の承認を得ている。

4. 研究結果

分析の結果、27 の概念が生成され《信頼関係の構築》《アセスメント能力》《ストレングス視点》《主体性を育む支援》という4つのカテゴリーに分かれた。《信頼関係の構築》は＜自らの心を開く＞＜対等な関係であることを意識する＞＜自らの感情をコントロールする＞等によって構成された。《アセスメント能力》は＜高齢者の自己決定に対する思いの把握＞＜高齢者の世間体に対する思いの把握＞＜高齢者の考え方の傾向の把握＞等によって構成された。《ストレングス視点》は＜高齢者の現在の興味や関心のある事柄＞＜高齢者の近未来の願望＞＜高齢者の協力者＞等によって構成された。《主体性を育む支援》は＜待つこと＞＜選択肢の提示＞＜時には代弁者となる＞等によって構成された。

信憑性の確保については、分析内容のチェックを共同研究者と行い、質的研究に詳しい研究者による継続的なスーパービジョンを受けた。さらに、インタビュー9名に結果と研究者らの解釈を説明し、実践経験に照らして違和感がないか意見を聞き、違和感のないことを確認した。

5. 考察

高齢者が自己決定する過程で、高齢者へ「自分自身の意志と役割を持っていること」を伝えるという実践をする時、高齢者に対して「あなたは自分の意志と役割を持っていますよ」と話しかけるのではなく、高齢者に対して心を開いて接すること、高齢者と対応な関係であることを意識して接すること、自分で「したい」とか「決めたい」という高齢者の思いを大切にすること等によって、介護福祉士は高齢者との信頼関係を構築していることが推測された。高齢者との信頼関係を基礎にして、介護福祉士は、高齢者が自分の思いを表現しやすいように雰囲気づくりに配慮し、高齢者の考え方の傾向、高齢者が自分で「すること」や「決める」ことをどのように思っているのか、高齢者が自分自身のことをどのように思っているのか等を把握するとともに、高齢者が「した」「決めた」後に生じる可能性についても、介護福祉士は想像していることが推測された。さらに、介護福祉士は高齢者のストレングスにも着目していた。具体的には、高齢者の現在または過去の興味や関心のある事柄、高齢者の願っていること（近未来の願望）、高齢者を支えている協力者等である。高齢者の主体性を育むため、介護福祉士として重視していることは、高齢者が自分で決めることができるように選択肢を提示すること、高齢者が自分で「すること」や「決めること」を待つこと、高齢者が自分で「する」「決める」ために、情報をわかりやすく説明すること、時には周囲への遠慮等から高齢者が表現できない場合、代弁者となっていることが推測された。なお、本研究は、科学研究費助成事業・基盤研究C・15K04020の一部として行ったものである。